

参加報告書

兵庫県サッカー協会 中川 琢士



はじめに

このような全国大会に参加できとても貴重な体験を多くさせていただきました。推薦していた、兵庫県サッカー協会・関西サッカー協会のみなさまに改めて感謝いたします。10月1日～4日に栃木国体に参加した報告をさせていただきます。

10月1日（土）

ホテル到着
事前研修会

10月2日（日）

栃木国体少年の部1回戦

岡山県VS栃木県

R 中川琢士 A1鈴木寿士氏（宮崎県）A2石川貴仁氏（山口県）4th齋藤記央氏（栃木県）

審判アセッサー 北郷光宏氏

開催県の1回戦ということもあり観客は大勢いて良い雰囲気でした。試合が始まりました。35分ハーフということで最初からギアを上げ、栃木は10番の選手を中心にセカンドボールに早く寄せ、ボールを動かし、岡山は左サイドを中心にサイド攻撃を仕掛けていました。前半10分に栃木が先制点をあげ、そのまま試合は1-0で終わりました。

振り返り

審判アセッサーからは試合中の動きで、中盤でのサイドステップやバックステップが少なく、止まっていることが多いのもう少し動きを入れたほうが良いとアドバイスをいただきました。また、注意をする際、競技者の前にしっかりと立ち、厳しい態度で接する事が大切であると教えていただきました。試合後には日本サッカー協会審判委員長の扇谷さんからも話をいただき、貴重な時間を過ごすことができました。

10月3日（月）

栃木国体少年の部2回戦

静岡県VS新潟県

R 奥村勇磨氏（奈良県）A1中川琢士 A2宮地夏希氏（神奈川県）4th上野智貴氏（栃木県）

審判アセッサー 木崎博昭氏

新潟県が前線からのプレッシングで静岡県のビルドアップを阻止し、インターセプトからサポート良くボールをつなぐ展開で前半に2点先制する。静岡も高い技術力からシュートチャンスを作るが、連携の取れた新潟の守備は固く、ゴールがなかなか入らない。後半に入り、新潟が1点追加しそのまま終わるかと思われたが、静岡県が2点を返し、最後まで白熱する試合となった。

振り返り

難しい判定はなく、余裕をもって取り組みました。ペナルティーエリア前の副審フリーキックの際、主審はゴールラインも見たいということなので深くポジショニングを取りたいので、副審は壁を見てほしいと打ち合わせで確認したが、実際に主審のポジションはどこが正しいのかということが議論になった。アセッサーは壁の監視は主審がすべきだと指導されていた。

10月4日（火）

栃木国体少年の部3回戦

東京都VS神奈川県

R 本郷行秀氏（石川県）A1中川琢士 A2高橋海星氏（北海道）4th鈴木翔氏（栃木県）

審判アセッサー 木崎博昭氏

東京はアンカーを配置し手厚い守備を構築し、神奈川はボールを保持して攻め続けていたもののなかなか両チーム得点が入らない状況が続いていたが、東京が奪ったボールを素早くサイドに展開し先制点を決める。後半になり、神奈川がボールを握り、セカンドボールを拾う展開が続く、50分に同点ゴールを決める。その後CKから神奈川県が逆転ゴールを奪い、2-1で神奈川県が勝ち準決勝に進出した。

振り返り

特に難しい判定はなく、ファウルサポートなど余裕をもってできた。試合のレベルが高く、注目カードであったため、地域の小学生たちが大勢観客として観に来ていました。ゴール後その小学生がいるスタンドにゴールパフォーマンスに行く選手たちをどうマネジメントするのかといったことを審判団で考えさせられました。安全を第一に考え、得点の喜びを最大限に表現させてあげ、かつ相手チームのフラストレーションが溜まらないマネジメントが必要であり、試合によって考える必要があるなど感じた。

最後に

栃木県サッカー協会のみなさまには大変お世話になりました。試合中以外の部分もきめ細かい配慮をいただき、素晴らしい4日間を過ごすことができました。スタッフの皆様には、空き時間もいろいろな話をいただいたお陰で、リラックスして試合に臨むことができました。また、選手権前にもかかわらず多くの高校の先生がスタッフで参加されており情報交換をすることができました。こうした多くの人の人との出会いもこの4日間の貴重な経験であったと思います。ありがとうございました。この経験を糧に頑張っていきたいと思います。



「いちご一会とちぎ国体」 大会参加報告

2 級審判員 金淵佑亮

この度、栃木県で開催された「いちご一会(いちえ)とちぎ国体 サッカー競技(成年男子)」に 10 月 1 日(土)から 10 月 3 日(月)の 3 日間参加させていただきました。

はじめに、国民体育大会という素晴らしい大会に派遣していただき本当に有難うございます。また、大会関係者並びにお世話になった栃木県サッカー協会、派遣いただいた関西サッカー協会の方々に御礼申し上げます。

以下、参加報告をさせていただきます。

事前研修会(オンライン開催)

大会前に、2 回に分けて事前研修を行いました。

第 1 回

内容: 事務連絡・オフサイドの解釈の説明・インストラクターによるプレゼン

今大会は健康チェックアプリのインストール及び大会前の PCR 検査が義務付けられているため、それらの説明及び大会に関しての事務連絡を受けました。その後、オフサイドの解釈(意図的なプレー or ディフレクション)について、映像を用いて理解を深めました。最後に、大会に参加するインストラクターより『プロアクティブなレフェリング』というテーマでプレゼンをしていただきました。

【オフサイドの解釈について】 講師 名木氏

競技者がボールをコントロール下に置いているという条件のもとで、

- ① ボールが長く移動したので、競技者はボールをはっきりと見えた
- ② ボールが速く動いていなかった
- ③ ボールが動いた方向が予想外ではなかった
- ④ 競技者が体の動きを整える時間があつた、つまり、反射的に体を伸ばしたりジャンプせざるを得なかったということでもなく、または、かろうじてボールに触れたりコントロールできたということではなかった
- ⑤ グラウンド上を動いているボールは、空中にあるボールに比べてプレーすることが容易である

① ～④ 全て「YES」と判断 → 意図的なプレー

① ～④ 1 つでも「NO」と判断 → 意図的なプレーではない(ディフレクション)

⑤ ボールの移動、速さ、動きの方向に加えて、「グラウンド上」にあったのか、「空中」にあったのかも判断の考慮点となる

ポイント

・ウェイト&シーを駆使していく

・そもそもオフサイドポジションに居たのか、オフサイドポジションにいつ居たのか

→ここがあやふやになると、迷いが出る

・選手からのリアクションがあつた場合、マネジメントをする

→重要なキーセンテンス(鍵となる重要な文)を覚えておく

どの選手がオフサイドポジションなのかの判断やラストタッチはどちらのチームなのかを含め、基本的な判断が重要なことに変わりはなく、意図的なプレーかディフレクションかというところだけに集中をしてしまうと、エラーが起きる可能性が高まるため、注意していきたいと感じました。映像を繰り返し見て、自分で擦り合わせを行うことが大事だと思ったので、各審判員が映像を用いて理解を深めていくことが現場で正しい判定を導くことに繋がっていくのではないかと考えます。

【研修テーマ:プロアクティブなレフェリング】 講師 荒川氏・遠山氏

プロアクティブって・・・前向き、積極的、先見的の意を表す形容詞

プロアクティブなレフェリングとは？

予期予測・気づき・戦術理解・決断力・サッカー観・予防・段階を踏んだ対応・走るスピード・素早い切り替え・コミュニケーション 等

昼に運転をしている映像と夜に運転をしている映像が用意され、昼と夜では何が変わってくるかを考えながら映像を見比べました。特に夜の場合は、対向車のライトなどに目がいってしまうと歩行者を見失ってしまう可能性があるため、その場面での優先順位は何かということを考えました。

サッカーの試合においても 1 つのところに焦点を絞ると周りが見えなくなりますが、周りを見て色々な気づきを持って対処することで、問題を未然に防止できることを改めて認識しました。

最後に、「予期予測を常に意識して、あなた自身の培ってきた全フィジカル能力とサッカー理解をフィールドで表現(発揮)しよう。」という言葉で締めくくられました。

第 2 回

内容: 大会要項説明・インストラクターによるプレゼン

JFA・名木氏より、大会要項及び注意事項について説明いただきました。今大会は 5 名まで交代可能ですが、プレー続行不可な負傷者が出た場合は、「追加で 1 名に限り、交代して退いた競技者が再び出場することが認められる。」という要項もあるため、チームに戦術的な目的で利用されることがないように審判団として気をつけなければならないと感じました。

加えて、AD カードの貸渡の厳禁、SNS の利用についてもお話がありました。競技者・競技役員は事前に PCR 検査で陰性だった人のみが参加をしているため、知人などに AD を貸すなどの行為はあってはならないということ、割り当て情報や研修スケジュールを SNS に掲載することは厳禁であることを共通認識として持ちました。

【研修テーマ:プロアクティブなレフェリング】 講師 北郷氏(福島県)

約 6 分間の映像を視聴し、それを基にプレゼンをしていただきました。

6 分の中で起こったことは、以下の通りです。

○キックオフ～

- ・ゴールキーパーへのバックパス⇒間接フリーキック+10 ヤードのコントロール
- ・負傷者への対応⇒ドロップボールで再開
- ・アドバンテージ⇒ファウルを受けた選手への対応
- ・最初のファウル判定

最初のファウル判定まで約 6 分間

映像を見て感じたことは、開始早々の間接フリーキック時の壁のマネジメントから始まり、負傷者への対応・ファウルを受けた選手への対応が丁寧であったため、6 分間の中で競技者やチーム役員からの信頼を得られたのではないかと感じました。また、主審が負傷者の対応をしている間は、副審 2 がボールの管理をしており、審判団としてもチームワークが発揮されていました。

選手・チーム役員と信頼関係の構築ができると



主審の精神面→自信＋安定に繋がる

※後半にファウルが多くなるのはなぜ？

- ・選手交代
- ・残り時間
- ・選手の疲労 等

上記以外にも様々な要因があるかと思いますが、試合の雰囲気に関わる変化を感じ取って対応していくことが大事だということを再認識しました。後半にファウルが多くなっていく試合は自身も経験がありますが、こういった部分に対する気づきがあるかないかで、試合の終わらせかたも変わると感じるため、交代で入ってきた選手の特徴を掴む等の気づきを常に持つようにしたいと思いました。

最後に、試合が終わってから勝者・敗者ともに試合をやって良かったという気持ちになり、「『レフリーありがとう』と言ってもらえるように頑張りましょう。」という言葉で締めくくられました。

10 月 1 日(土)

【1 日目】

18 時迄に各自でホテルに集合し、夕食後にオンラインで全体ミーティングを行いました。

始めに、大会参加インストラクターより一言ずつご挨拶を頂戴し、泉チーフより以下 2 点のお願いがありました。

①ミスジャッジで試合が決することがないように心掛けてほしい

→ミスジャッジで試合が決まってしまったという気持ちでチームが帰ることがないようにしていきましょう

②良いところを伸ばしていきましょう(平均化したレフェリーにならない)

→インストラクターがレフェリングを見ただけで、そのレフェリーの長所が分かるくらいのレフェリングをしましょう

その後に割当が発表され、栃木県審判委員長より翌日からの行動について、ご説明いただきました。今大会は、原則会場入りするまでに抗原検査を毎日実施する必要がある、改めて感染対策には気をつけなければという気持ちになりました。

最後に、泉チーフより「コロナ対策については、各個人が責任を持って常識ある行動をするようにしましょう。」というお言葉でミーティングは締めくくられました。

10月2日(日)

【2日目】

[担当試合]

1 回戦 12:00KO 岐阜県 vs 北海道 @河内総合運動公園陸上競技場

R:長南氏(福島県) A1:金淵 A2: 野崎氏(東京都) 4th :森田氏(栃木県) ins:荒川氏

この試合では副審である私が旗を挙げて主審を呼び、警告を示してもらうシーンがありました。

事象としては、ハーフウェーライン付近で競り合いの際に攻撃側競技者の左腕の部分が相手競技者の顔に当たったというシーンです。主審は注意をするという選択をされましたが、私と第 4 審は必ず警告が必要という共通認識であったため、再開前に旗をあげて主審を呼びました。

インストラクターからは「副審 1 と第 4 審の勇氣ある行動だった。良かったと思う。」とコメントをいただきました。控室で主審の方に確認したところ、「接触部位は明確に見えてなかった。」とのことでした。(主審は、事象をバックスタンド側から見ていた)メインスタンド側からはハッキリと事象が見える場面でもあったので、そのまま再開させるのではなく、副審側の意見を伝えることができて良かったです。

【振り返りミーティング】

まず始めに、翌日の割当発表がありました。

その後、会場ごとに翌日に向けて共有すべき事項(チームの特徴・会場での注意事項 等)を主審担当者より報告いただきました。「国体は勝ち進むごとにテンションが上がっていく。」と泉チームも仰っていたので、その点も頭に入れて取り組まなければならないと感じました。

10月3日(月)

【3日目】

[担当試合]

準々決勝 13:10KO 静岡県 vs 埼玉県 @さくら市総合公園さくらスタジアム

R:金淵 A1: 太田氏(福島県) A2: 表氏(石川県) 4th :岡田氏(新潟県) ins:泉氏

●良かった点

走る量・スピードに関しては申し分ない。ポジショニングも気にはならなかった

→走力を魅せる力もある

●改善点

・主審の雰囲気選手に緊迫感を与えている→笑顔が少な過ぎる

・主審自身に余裕があったとしても、余裕を感じないように見えてしまう→表現力

今大会に臨むにあたって、審判パスポート(審判員の情報)を事前に入力した中で、ストロングポイントは「走力とポジショニング」・ウィークポイントは「表現力」と回答をしていましたが、それがそのまま反映されるような形となりました。

笑顔が多過ぎると、競技者やチーム役員・観戦者に対し緊張感を損ねてしまう恐れがあることや”毅然とした態度”とのギャップが生じる可能性があります。一方、緊迫感を与え過ぎてしまうと必要以上に感情を高ぶらせてしまう要因にも繋がりがねません。

表情1つにおいてもバランスの取り方がとても難しいと感じますが、自分で考えてピッチで表現をしていくことが審判だけではなく、人間的な成長にも繋がると考えるので、この点について今後も工夫していきたいと思います。

反省会終了後、ホテルに一旦戻って各自解散しました。

【まとめ】

この度は国民体育大会に参加させていただき有難うございました。全国大会への参加は、2019年の沖縄インターハイ以来だったため、私自身は非常に楽しみな気持ちを持った中で今大会を迎えました。コロナ禍のため、研修会も対面ではなくオンラインということもあり、他地域の審判員と交流できる時間は限られましたが、試合会場で他地域の様子も少し聞くことができたことは良かったです。

初日に、泉チーフからお願いのあった「①ミスジャッジで試合が決することがないように心掛けてほしい ②良いところを伸ばしていきましょう」については、日頃の審判活動から意識をしておく部分であると思います。特に、人間はウィークポイントに目が行きがちかと思いますが、自分のストロングポイントに自信を持って磨きをかけていくことにより、審判活動をする上で一つの武器とし、平均化したレフェリーにならないことにも繋がると考えます。この参加報告を読んでもくださっている皆さんも、今一度、自分のストロングポイントは何か？ということを出していただく機会になれば幸いです。

また、今大会は新型コロナウイルスも未だ収束していない中での開催となりましたが、無事に派遣の全日程を終えることができました。大会を無事に迎えることができたのも多くの運営の方々のご尽力あってこそです。この大会に参加したからこそできた経験を自身の審判活動だけでなく、周りの方々にも共有してより良いレフェリングをしていくことで関西のサッカー界に貢献できればと思います。

有難うございました。